

平成27年度 県民芸術劇場 君津公演  
君津市民文化ホール開館25周年記念事業

# ニューフィルハーモニー オーケストラ千葉 演奏会

ピアノ

田部京子

ヴァイオリン

岡本誠司

指揮

大井剛史

管弦楽

ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉

2015年 11月3日(火祝)

君津市民文化ホール

大ホール

開場13:30/開演14:00

主催：千葉県/(公財)君津市文化振興財団/虹の音楽会

## Program

シベリウス

Jean Sibelius

### トゥオネラの白鳥 作品 22-2

The Swan of Tuonela Op. 22/2

グリーグ

Edvard Hagerup Grieg

### ピアノ協奏曲 イ短調 作品 16

Piano Concerto in A Minor, Op. 16

ピアノ：田部京子

休 憩

ムソルグスキー

Modest Petrovich Mussorgsky

### 歌劇「ホヴァンシチーナ」より 前奏曲 “モスクワ川の夜明け”

(リムスキー・コルサコフ版)

Khovanshchina Prelude , Dawn over the Moscow River (arr. N. Rimsky-Korsakov)

チャイコフスキー

Peter Ilyich Tchaikovsky

### ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品 35

Violin Concerto in D Major, Op. 35

ヴァイオリン：岡本誠司

# Program Note

## シベリウス トゥオネラの白鳥 作品 22-2

シベリウス(1865 ~ 1957)は、フィンランドの作曲家です。交響詩「フィンランディア」は、今日もっともよく演奏されています。このトゥオネラの白鳥は、フィンランドに古くから伝わる英雄叙事詩「カレワラ」をもとにした4つの交響詩の一つです。曲が出来上がったときにはその3番目に置かれていましたが、その後、シベリウス自身が2番目と3番目の曲を入れ替え、今日では2番目の曲となっています。ただ、このトゥネラの白鳥以外の曲は、今日あまり演奏されることはありません。トゥオネラとは冥府のことで、そこを流れる川で遊ぶ白鳥の様子が描かれています。全体が暗く幻想的な雰囲気におおわれており、そのなかで、オーボエの仲間のイングリッシュ・ホルンが白鳥を想わせるメロディを奏でます。

## グリーグ ピアノ協奏曲 イ短調 作品 16 (ピアノ: 田部京子)

グリーグ(1843 ~ 1907)は、ノルウェーの作曲家です。ショパンから強い影響を受け「北欧のショパン」と呼んだ評論家もいます。イプセンの戯曲のために作曲した「ペール・ギュント組曲」とこのピアノ協奏曲が代表的な曲です。

曲は、3つの楽章でできており、第1楽章は、ティンパニに導かれたピアノの印象的な導入で始まり、いたるところでノルウェーの民謡を想わせるようなメロディと軽快なリズムが奏でられます。第2楽章は、まずゆったりと美しいメロディがオーケストラによって奏でられ、続いてピアノが繊細な飾りをともなったメロディを奏でます。休むことなく第3楽章へと続き、第3楽章は行進曲あるいは舞曲を想わせます。中間部ではうってかわってのどかなメロディが流れ、再び楽章の始めの曲想に戻り高揚の中で中間部のメロディが高らかに奏でられ曲は終わります。

## ムソルグスキー 歌劇「ホヴァンシチーナ」より 前奏曲 “モスクワ川の夜明け” (リムスキー・コルサコフ版)

ムソルグスキー(1839 ~ 1881)は、ロシアの作曲家です。よく知られている曲として、歌劇「ボリス・ゴドノフ」、管弦楽曲「はげ山の一夜」、のちにラヴェルによって管弦楽曲に編曲されたピアノのための組曲「展覧会の絵」などがあります。

歌劇「ホヴァンシチーナ」は、17世紀の終わりにロシアで起こった「ホヴァンスキーの乱」を題材にしたものです。兵隊の暴動をきっかけにした皇位争いと、苦しみの中にある民衆の姿が描かれています。前奏曲は、争いごととはかけ離れた非常に美しい曲です。

## チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品 35 (ヴァイオリン: 岡本誠司)

チャイコフスキー(1840 ~ 1893)は、ロシアの作曲家です。交響曲や「白鳥の湖」などのバレエ音楽、ピアノ協奏曲などを作曲しています。

1877年にチャイコフスキーは、ある裕福な人から年金を贈られるようになり、スイスのレマン湖のほとりに滞在して交響曲第4番と歌劇「エフゲニー・オネーギン」を完成させました。そこに友人のヴァイオリニストのコテックが訪ねてきてしばらく一緒にいた折にこの協奏曲を作曲しました。

短い序奏の後、堂々としたメロディが奏でられ、続いて強い意志を内に秘めたメロディが現れ、途中、カデンツァと呼ばれるところで独奏ヴァイオリンが技巧を披露し、オーケストラも加わって華やかに第1楽章は終わります。第2楽章は、カンツォネッタという副題がついており、弱音器をつけた独奏ヴァイオリンが物悲しくも非常に美しいメロディを奏で、最後に次の楽章を予感させながら切れ目なく第3楽章に移ります。第3楽章はリズムな早い楽章で、途中ではロシアの民族舞曲を想わせるところもあり、その後、独奏ヴァイオリンとオーケストラとのスリリングな掛け合いが続きクライマックスを迎えて曲は終わります。

この曲は作曲された当初、高度な演奏技術が求められるためあまり評判が良くありませんでしたが、今日ではメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲とともに、もっともよく演奏される協奏曲の一つとなっております。



## Profile



### 田部京子

Kyoko TABE ピアノ

東京芸術大学附属高校在学中、日本音楽コンクールに最年少で優勝。東京芸術大学に進学後、ベルリン芸術大学に学び、同大学、大学院を首席で卒業。エピナール国際ピアノコンクール第1位、シュナーベル・コンクール第1位、ミュンヘン国際音楽コンクール(ARD)第3位、ショパン国際ピアノコンクール最優秀演奏賞など受賞多数。バイエルン放送響、バンベルク響、モスクワ・フィル、ワルシャワ・フィルほか多数共演し、アルバン・ベルク四重奏団、カルミナ四重奏団ほか世界のトップアーティストから共演者に指名され厚い信頼を寄せられている。カーネギーホール主催によりワイル・リサイタルホールでニューヨーク・デビューを果たす。これまでに、村松賞(音楽部門大賞)、新日鉄音楽賞などを受賞。

CDは30枚以上リリース、その多くが国内外で特選盤に選出、カルミナ四重奏団との共演盤『ます & シューマン：ピアノ五重奏曲』(2008年)はレコード・アカデミー賞を受賞。近年リリースした『ブラームス：後期ピアノ作品集』

(2011年)、『モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番二短調、第21番ハ長調』(2012年)はレコード芸術誌特選盤、2012年度同誌のリーダーズ・チョイス器楽部門第1位、協奏曲部門第2位に選出された。

2013年にはCDデビュー20周年を迎え、カルミナ四重奏団との日本ツアー、記念リサイタルなどを行った。これまで『シューベルト・チクルス』、『シューマン・プラス』など大好評を博したリサイタルシリーズに続く『BBワークス<ベートーヴェン&ブラームス>』(全5回/浜離宮朝日ホール)は、本年12月に第5回が予定されている。現在、日本を代表する実力派ピアニストとしてますます人気を集めている。

演奏活動の傍ら、上野学園大学教授(演奏家コース)、桐朋学園大学特任教授を務める。

オフィシャル HP : <http://www.kyoko-tabe.com>



### 岡本誠司

Seiji OKAMOTO ヴァイオリン

千葉県市川市生まれ。東京芸術大学附属音楽高校を経て、東京芸術大学音楽学部第3学年在学中。

2006年第60回全日本学生音楽コンクール小学校の部 東京大会、全国大会第1位、併せて東儀賞、兎束賞、毎日小学生新聞社賞を受賞。2009年カネティ国際コンクールで最年少第2位と特別賞を受賞。2014年7月ドイツのライブツィヒで開催された第19回 J.S. バッハ国際コンクールでアジア人初の優勝、併せて聴衆賞も獲得。自然な音楽性とそれを表現する技術が高く評価され、20歳にして稀にみる円熟を備えたヴァイオリニストだと評される。

15歳で初リサイタルを開催。その後、イエローエンジェル創立記念コンサート、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン、ライブツィヒ・バッハ音楽祭2015など数々の演奏会や音楽祭に出演。2015年 TOPPAN HALL にてバッハ国際コンクール優勝記念リサイタル開催。これまでにセントラル愛知、リエカ

市立管弦楽団(クロアチア)、中部フィル、横浜シンフォニエッタ、ニューフィル千葉、Pauliner Kammerorchester(ドイツ)、アンサンブル金沢(敬称略)などと共演。また、室内楽にも積極的に取り組み、ラガッツォ弦楽四重奏団としてザルツブルク = モーツァルト国際室内楽コンクール 2014 第2位などの成績も収める。

これまでに富川敏、中澤きみ子、G. プーレ、澤和樹、P. アモイヤル、H. ザックの各氏に師事。現在、NPO 法人イエローエンジェルより1827年製の J.F. プレセンダを貸与され、(株)日本ヴァイオリンより助成を受けている。2014年、千葉県知事より顕彰、台東区より文化・スポーツ奨励賞を授与される。2015年、東京芸術大学平山郁夫文化芸術賞受賞。2015年度ロームミュージックファンデーション奨学生。

今月22日からフィンランドのヘルシンキで行われる「第11回シベリウス国際コンクール」に出場する。





# 大井剛史

Takeshi OOI 指揮



©K.Miura

東京芸術大および大学院にて松尾葉子氏に師事、故若杉弘、故岩城宏之、レヴァイン、マズア、ジェルメッティ、カラブチェフスキーの各氏から指導を受ける。2000～01年、仙台フィルハーモニー管弦楽団の副指揮者として研鑽を積み、2007～09年、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団にて研修。現在、山形交響楽団正指揮者、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉常任指揮者を務め、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉とは2013年からベートーヴェン交響曲チクルスを行っている。このほか読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団をはじめ国内主要オーケストラを指揮し、幅広いレパートリーと誠実な指揮でいずれも高い評価を得ている。東京フィルハーモニー交響楽団とは、2012年よりチャイコフスキーの交響曲チクルスを行い、好評を博した。新進作曲家の現代作品や、吹奏楽、オペラ、バレエ、など幅広い分野で意欲的に活動している。08年アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール第2位。尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。

## ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉

New Philharmonic Orchestra Chiba 管弦楽

ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉は1985年に財団法人として設立され、以来千葉県唯一のプロオーケストラとして、地域に根ざした音楽活動を基本に、さらには日本音楽界に新風を送るようなオーケストラを目指して、一步一步着実な歩みを続けている。

定期演奏会その他のコンサートにおいて、創立指揮者・音楽監督伴有雄（故）、名誉指揮者（前常任指揮者）山岡重信をはじめ、大町陽一郎、飯守泰次郎、山下一史、飯森範親等、著名な指揮者を迎えている。2009年10月、常任指揮者に大井剛史が就任した。

定期演奏会をはじめ、県民芸術劇場や各地の第九演奏会、オペラ・バレエの公演など、毎年約20回にわたるコンサートに出演し、オーケストラの質の向上に努めている。

また、千葉県及び各市町村教育委員会の共催事業である小中高等学校音楽鑑賞教室を毎年50校ほど実施し、幼稚園、特別支援学校の訪問演奏や各種室内楽等でも県内各地で活発に活動し、合わせて年間150回ほどのコンサートに出演、その新鮮で熱気あふれる演奏は多くの県民の支持を得て、名実ともに千葉県民のオーケストラとしての地位を築いている。本年4月に財団設立30周年を迎えた。

1996年、第1回NHK地域放送文化賞受賞

2010年4月より社団法人日本オーケストラ連盟準会員

2012年10月より公益財団法人へ移行



©金源胖

